

《卒業生の進路傾向と入試の現状をつかめ！》

ここ数年の先輩たちの合格数概況です。国公立大カッコ内は進学数。

	H29/3月卒業生	H30/3月卒業生	H31/3月卒業生
国公立大合格数	42(40)	52(49)	52(49)
福島大学合格数	6	11	8
新潟大学合格数	6	4	6
山形大学合格数	6	10	4
県医大看合格数	4	0	1
会津大学合格数	9	3	5
私立大進学者数	101	100	108
GMARCH 日東駒専合格数	34	16	22
公立短大合格数	21	28	15
看護学校合格数	21(+大専校1)	10	15
他専門靴合格数	19	16	31
公務員職合格数	8	12	7
推薦AO進学者数	71	46	118

学部別等の詳細は、今月発行の「進路資料」を参照のこと

【ここから先をよ〜く読んで理解してくださ〜い！】

- * **志望実現の近道はセンター試験の平均点を超える層に入ること**です。ちなみに、今年のセンター平均点は900点満点換算で文系理系ともに570点以上。葵高校で6割ラインの540点を超えたのは26名でした。私大のセンター利用入試の場合は、得意科目で特に優れた力が必要とされます。
- * **看護・医療系の学部学科を希望する人たちが急増**しています。会津短大や看護専門学校、公務員の志望者もが多いのも特徴です。これらの試験には、面接や小論文(作文)、適性検査などの対策が不可欠。志望先決定が早ければ、対策も講じやすくなります。
- * ここ数年の全国的な傾向として、大都市圏上位私大の定員削減による難化、それに伴う首都圏周辺私大の難化、そして推薦入試・AO入試の増加が大きく取り上げられています。**特に文系生徒にとっては、ずば抜けた力がないと上位私大の合格を勝ち取ることは極めて困難**になりました。推薦・AOの増加は一般入試の定員枠をせばめることに直結し、周辺私大も簡単には合格できません。各業者もこの傾向を把握できずに、合格可能性A判定の受験者からも多くの不合格者を出す結果となりました。
- * 国や大学の方針として、定員の約3割は推薦・AOの形態にする取り組みが進行中です。私大やその他の学校では5割以上のところが珍しくありません。葵高校も、今年の卒業生のうち、四年制大学、短大、専門学校を合わせた進学者はその半数以上が推薦・AO入試によるものでした。

**現1・2学年のみなさんは、
新しい制度による入試**

を迎えることとなります。大きく3つ変化。

(その1) センター試験に代わる共通テストでは、思考力を問う論述問題が一部に採用されます。

(その2) 英語の民間試験利用では、「読む・書く・聞く・話す」の4技能バランスが要求されます。

(その3) また、高校時代の活動や主体的学習姿勢を重視して点数化する大学もあります。



制度は変わっても

*ただし、この試験制度は時代の変化に対応した改革とされていますが、まだまだその方法や効果は未知数です。まずはこれまで通り、普通の授業にしっかり取り組み、絶対的基礎力を身につけたうえで、社会に貢献する方法を考えることが先決です。入試の方法が変わっても、人間らしく、世界の平和と人類の幸福のために生きていくのに必要とされる力は、大きく変わることはありません。



ちょっと考えて！ ～ 行き先の選択に、何を優先するのか ～

◎ごく自然なことではありますが、**経済的な理由**から、国公立大や短大、公務員試験のみに志望を限定するケースが目立ちます。さらに、ここ数年の次年度進学予定者(いわゆる浪人)は、クラス減の影響があるにしても10年前の半数以下、今年は13人ととどまっています。たしかに30年前と比較すると、各家庭の平均収入はさほど伸びていないのに、大学の学費は文系で約2倍。奨学金の返済で首が回らなくなる学生もいたりして、大きな社会問題となっています。自宅から通える都市部の学生のほうが圧倒的に有利だし・・・**進路選択にはさまざまな形があっしかるべきですが、「現実への妥協と理想実現のバランスをどうとるのか」は、いつの時代も究極の課題です。まず自分でよく考え、家族と相談し、先生にアドバイスを受けましょう。**



今年も ～特別(実は普通)活動のススメ～

新緑の季節。1年生は葵の生活に慣れたでしょうか。まあ、最初の中間考査が終わらないと軌道に乗らないのが高校生活の常。しっかり準備して試験に臨んでください！



毎年取り上げている「特別(実は普通)活動」。1年生にとって、高校での部活動は入学前からの楽しみやあこがれだった人もいます。2・3年生は、後輩が入ってきて何かと気合いが入るところだねえ。勝利を目指して燃える運動部、心一つにいろいろなものを築き上げる文化部。何かに熱中したり、ボランティア活動したり。生徒会活動・行事で協力し合っても達成感や成就感を得ることができるよね。ホームルームも合唱コンクールも修学旅行も、み～んなみ～んな「特別活動」。そんな活動の中で、**みんな、たいてい悩む。**

上下関係で悩む。チームワークに悩む。目標設定に悩む。勉強との両立に悩む。才能に悩む。

仲間の力不足に悩む。結果が出ないことに悩む。金銭的に悩む。健康面で悩む。

悩んで悩んで、もがき苦しみながら壁を崩して乗り越えて・・・新たな友が見つかって、自分の弱さに気がついて、自分の長所を見いだして、周囲の支援に感謝して・・・それでも思った通りにいくことは少なくて・・・



それでいい。だって、これって社会に出れば当たり前のことだもの。精神的に落ち込んだり、前を向いたり、病気になったり、元気になったり、お金があつたりなかったり・・・そもそも「悩む」にはエネルギーが必要。トシをとると、エネルギーがなくなって「悩む」ことすらできなくなる。「悩む」ことができるのは若さの象徴なんだよ、みんな！

やがて、組織の仲間、上司、部下、取引相手、お客さん、生徒、患者、時には商売敵と。戦ったり、協力したり、いがみ合ったり、打ち解けたり・・・豊かなコミュニケーションをとりながら、社会の一員として生きていく。——そのための訓練と思えばいい。と言うより、「特別活動」ってホントは「普通活動」。だから、**進路選択やその実現に大きな役割を果たすんだよ。**

そして将来、一人前の社会人になるために、「**自分を知ること**」は必須。

○**ホームルーム活動・部(委員会)活動・生徒会活動を通して、自分の性格や特性を知る。**

これは全学年にあてはまる。これから先も納得できるまで一生繰り返す。

「普通活動」を通して自分をよく知り、心を磨き上げよう！

